



第88号

●主な記事

令和7年度同窓会総会開催
支部・同期会・OB会日より
母校近況・寄贈図書

令和7年12月15日発行

一般社団法人 長野高等学校金鷄会

事務局 ☎ (026) 235-3822

発行人 山口 利幸

編集人 原 良通

URL

<http://www.kinshi.org>

E-Mail

dousoukai@kinshi.org

ご挨拶



会長 山口利幸 (高17回)

年の瀬を控え会員の皆様方がいかにお過ごしでしょうか。今年は長期にわたり夏の猛暑が続く異常な年となりました。

『読売川柳 (10・29)』に「団栗や柿さえヒトを怖がらせ」(森昭大氏)と掲載されたように山の団栗やブナが実をつけず各地でクマが人の居住地に出没しています。地球温暖化の影響が身近な生活に及んできている一例と思います。

同窓会活動につきましては、平素からご理解・ご支援をいただき誠にありがとうございます。6月28日の総会において昨年度の活動報告、会計決算が承認され、本年度の事業計画と予算及び令和7・8年度の理事、監事の選任が承認され今日まで順調に進んできております。名簿管理のデジタル化は、その後システムの検討・評価を数社と行っていますが、費用等で結論に至らず今後も引き続き検討してまいります。また創立130周年記念事業については企画原案を来年度の実行委員会の立ち上げに向けて準備しています。記念講演会は大坂樟蔭女子大学大学院教授の坂田浩之氏 (高41回) に『『美女と野獣』に見る思春期の心』と題し講演していただきました。高校生の子や孫を持つ会員に

とって大変興味深い内容でしたし、また母校での高校時代を振り返って得心するものが多かったのではないのでしょうか。懇親会には210名が参加し、美酒に酔い歓談のうちに進行し、来年度への引き継ぎ、最後に校歌「山また山」を高々と歌い盛会裡に終了しました。当番回期の高41回、高53回の皆様のご尽力に心から感謝いたします。

ところで同窓会事業の柱に母校在校生への支援があります。その中の「海外研修旅行」についてお伝えします。研修先は米国一国から米国を含めシンガポール、英国の3カ国となりました。また、学校行事から専門業者を介する個人参加となりました。『2025海外研修旅行記』には参加者47名の参加動機、目標、自分の役割、体得したことが記載され、「言葉の壁」(英語でしゃべり聞き取る力、間違える不安に克ち自分から発言する勇氣など)や「思考の壁」(対話、議論を通じ考える力)等に気づき自分自身を見直す深い貴重な経験が報告されています。いま公私を含め高校授業料の無償化が行われることで公立高校の定員割れ等が懸念されていますが、台湾への修学旅行とこの海外研修旅行が母校の特色として育つことを期待し、引き続き支援していきたいと思います。



夕暮れ時、金鷄会館学習室に明かりが灯る



個人スペースが確保された学習室



少子化と長野高校

学校長 廣田昌彦

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。母校は創立130周年を間近に控え、県民の期待を一身にうけながら生徒諸君は日々青春に熱中しているところです。

令和となって7年がすぎ、コロナ禍での出来事やAIが目覚ましく進化し日常の生活に浸透していくようなことも経験して、日本の社会はこれまでになく変動性が大きく不確実で複雑な様相を呈しています。特に少子化と人口減少によって高校教育が将来、いかなる影響を受けていくのか計り知れないものがあります。

小さな学校には小さな学校なりの良さがありますが、学校はやはり一定の大きさを維持してこそ力を発揮します。本校は現在、例えば音楽系の班活動を例にしても合唱、吹奏楽、管弦楽が十分な班員数をもって充実した活動を展開しています。同様なことはあらゆる運動班にも当てはまり、大きな学校を維持しているがために、生徒は多くの選択肢から青春時代をひとすじにかけける班活動を選ぶことができます。

本校には広範囲から様々な才能をもった優秀な人材が集まっています。班活動や生徒会活動にとどまらず、彼らはおそらく地元には得られない刺激を友人から受け、志を養います。生徒諸君が本校に入学して手にする一番の宝は、長高に学び日々切磋琢磨する仲間たちに他なりません。優秀な人材が競争しつつ、同時に協働することの大切さを学ぶ機会は、長野高校という環境こそが可能にしています。このバラエ

ティ、多様性こそ長野高校に学ぶ生徒を太らせ、日本に世界に活躍の場を求めて飛び立っていく力を蓄えるものなのです。現在の1学年7クラスが、6クラス、5クラスとなれば、この力は急速に弱まることでしょう。

長野県全体の中学生卒業生数は令和に入り2万人を下回りました。来春の卒業生数は17,500人ほどです。令和22年、今年0歳児の人口はちょうど1万人にまで減少します。各高校の存立の在り方が今後大きな問題としてますます顕在化することだと思いますが、本校の教育環境の維持は、長野県ばかりでなく日本の将来にも大きな影響を及ぼす課題ではないかと感じます。幸い私が校長として奉職した3年間は募集定員を減らすことなく、広く東信地域や中信地域からも入学生がある状況が続いています。

同窓生のみなさん、本校の学校規模維持は本校の存立だけでなく、地域社会の繁栄にもかかわる問題でありえると思います。狭く長野市内や北信地域の中学生数の減少にあわせて本校の募集人数を減らしていけば、やがて長野県全体の活力を失っていくことになるのではないかと危惧するところです。本校の教育活動の質を維持するため、学校の規模を維持することに皆様のご関心をお寄せいただきたく思います。

母校での校長の職は、重い責任を負いながらも学校のために心を尽くすことのできる充実した年月であります。末筆ながら母校の益々の繁栄を祈りつつ、お力をお貸しいただいたあらゆる皆様に御礼申し上げます。



立派な現校舎も竣工以来30年を越えました。永く使っていくためにも手を入れていく必要があります…

学年幹事会・同窓会総会開催

令和7年度の学年幹事会・同窓会総会が6月28日(土)、ホテル国際21を会場に開催されました。今年は高41回と高53回の皆様に担当幹事学年として運営していただきました。懇親会は210名というコロナ明け最も多い参加者で大いに盛り上がりました。

少し先にはなりますが、2029年(令和11年)に長野高校は創立130周年を迎えます。これから徐々にその準備に入っていきますので、皆様ご協力をよろしくお願いいたします。

期 日 令和7年6月28日(土)

場 所 長野市県町 ホテル国際21

出席者 学年幹事会 105名(委任状を含む)

学年幹事会

◇議事

- 第1号議案 令和6年度事業報告・決算報告承認
監査報告
- 第2号議案 令和7年度事業計画・予算案承認
- 第3号議案 デジタル化推進の現状について
- 第4号議案 創立130周年記念事業に向けての進め方
- 第5号議案 令和7・8年度理事・監事の選任

◇令和6年度事業報告・令和7年度事業計画

1. 会館維持運営事業
2. 旧制中学校資料収集事業
3. 高校生の国際理解涵養事業
4. 市民大学開催事業
5. 太陽光発電事業
6. 同窓会事業
 - (1)会報「日新鐘」の刊行
 - (2)支部・同期会・OB会への協力
 - (3)在校生への援助 (4)ゴルフコンペ
 - (5)日新館事業 (6)結婚相談室
 - (7)同窓会新データベースの構築
7. 総会、理事会、各種会議の開催



記念講演会 坂田浩之氏(高41回)

◇令和6年度決算・令和7年度予算

○収入の部

(単位:円)

科 目	令和6年度決算	令和7年度予算	備 考
正 会 員 会 費	10,057,000	11,100,000	
準 会 員 会 費	2,301,800	2,283,000	在校生
特 別 会 員 会 費	26,000	20,000	旧職員
貸 室 料	965,145	900,000	
市 民 大 学	0	80,000	
太 陽 光 発 電 収 入	1,430,209	1,400,000	
寄 付 金	3,387,000	2,000,000	
雑 収 入	476,454	69,000	利息・購買
そ の 他	1,646	1,700	
前 期 繰 越 金	19,700,095	18,177,563	
合 計	38,345,349	36,031,263	

○支出の部

(単位:円)

科 目	令和6年度決算	令和7年度予算	備 考
会 館 運 営 事 業	4,838,684	5,246,000	給料・通信費・補修費等
旧制中学資料収集事業	0	30,000	
国際理解涵養事業	0	200,000	
市 民 大 学 事 業	0	129,000	
太 陽 光 発 電 事 業	240,920	238,000	
同 窓 会 事 業	9,094,181	9,955,000	会報発行費・教育奨励費等
管 理 費	5,124,142	5,770,000	人件費・光熱水費・火災保険等
退 職 金 積 立	200,059	200,000	
会館設備補修積立	100,000	100,000	
固定資産取得支出	569,800	0	会計ソフト
予 備 費	0	50,000	
次 期 繰 越 金	18,177,563	14,113,263	
合 計	38,345,349	36,031,263	

同窓会総会

当番回期 高41回・高53回

◇学年幹事会報告

◇記念講演会

演 題 『美女と野獣』に見る思春期の心

講 師 坂田浩之氏(高41回)

大阪樟蔭女子大学 大学院教授

同 大学院臨床心理学専攻長

同 カウンセリングセンター長

◇懇親会



懇親会にて当番学年の引き継ぎ

母 校 近 況

● 新聞部活動報告 ～長高新聞700号記念号発行を迎えて～

顧問 海沼孝典

全国有数の発行部数を誇る「長高新聞」は創刊から77年、学校内外の出来事を伝えてきました。しかし、近年は新聞部員の減少の影響で、発行回数が減少し、1号当たりの紙面も減らさざるを得ない状況です。このような状況ではありますが、新聞の制作では一人一人が役割と責任を持って取材活動や記事執筆に取り組んでいます。記事を書く際は「今この記事を書く理由は何か」、「この記事で誰に何を伝えたいのか」との問いを大切にしています。さらに、記事の内容や意義について部員が相互に議論しながら充実した紙面作りを目指し

ています。

4月に新聞部は700号記念号の発行という大きな節目を迎えました。700号では、600号発行の2011年から14年が経過する中で、「100号分の時を超えて変わる新聞部と長高生」をテーマとした特集記事を柱にしました。現在、社会は急激に変化しています。特にスマートフォンの普及は、単なる通信手段の進化を超え、社会に様々な変革をもたらしました。この特集では、スマートフォンの普及が本校生徒の生活に与えた影響を伝え、さらに、地元テレビ局への取材を通して、テレビ、新聞など従来のメディアの在り方を考える機会となりました。また、現在の部員は未経験の6面の紙面の制作でした。4人での制作でしたが、部員相互の協力で無事に発行することができました。

現在、新聞部は703号の制作を行っています。長高新聞が本校で起きていること、高校生からみた社会について伝え、多くの方に読んでいただくことで、引き続き長高新聞が本校と同窓会の皆様を繋ぐ役割の一端を担っていきたいと思っています。



● 籠球班

2年 鈴木絢太

籠球班は、現在1年生11名、2年生9名の計20名で活動しています。顧問の相澤先生のご指導のもと、日々練習に励んでいます。先生が特に大切にされているのは「心」の部分です。技術や体力の基盤となるのはメンタルであり、同じ時間の練習でも心の持ち方によって成果は大きく変わります。

強い気持ちがあれば、きつい練習にも前向きに取



り組むことができます。

バスケットボールは展開の速いスポーツであり、常に一つ一つのプレーに気を配ることが求められます。そのため、日常生活での挨拶や整理整頓といった基本を大切にすることも欠かせません。そうした姿勢がプレー中の「気づき」やチームプレーの向上につながると考えています。プレイヤーとしてだけでなく、人間としても成長できるよう日々意識して活動しています。

昨年度は思うような結果を残せず、全員が悔しい思いをしました。その経験を糧に、今年はドリブル・パス・シュート・ディフェンスフットワー

クといった基礎練習に力を入れています。また、試合後には課題を見つけ、改善策を話し合っただけの練習に生かすなど、チーム全員で成長できる環境づくりを大切にしています。目標は、昨年達成できなかった北信ベスト8（県大会出場）です。達成に向けてチーム一丸となり努力します。

私たちがこうして毎日大好きなバスケットボールに打ち込めるのは、相澤先生をはじめ、多くの先生方、保護者の皆様、先輩方、そしてOB会の皆様のおかげです。感謝の気持ちを胸に、楽しく、そして結果でも恩返しできるよう頑張ります。

● 天文地球科学班 活動報告

顧問 黒岩寛明

天文地球科学班は、3年生4名、2年生3名、1年生10名で、天文・地質・岩石鉱物などのテーマで活動しています。主だった活動を紹介します。

○春の巡検

R7：日本科学未来館（R6：戸隠地質化石博物館 R5：フォッサマグナミュージアム）

NHK人気アニメを舞台にした特別展「チ。ー地球の運動について」が開催されていました。地動説を命懸けで探究する人々を描いた物語です。その中で、緻密なデータをもとに火星の軌道が楕円であることを発見するくだりがあります。班員は学校に戻ってから、その発見に挑戦し、データ

解析をして火星が楕円軌道であることを確認しました。

○夏のペルセウス座流星群観測

R7：小川村大洞高原（R6：斑尾高原 R5：学校）

ペルセウス座流星群の観察に加え、夏の夜空で代表的な、白鳥座アルビレオ（天上の宝石）、球状星団M13などを観察し、翌朝は太陽のプロミネンスを見ました。

○地学オリンピック

12月に地学オリンピックがあります。それに向けて取り組んでいます。例年、若干名が予選突破を果たしています。決勝進出者も出ています。

日々の活動として、今年は「ビスマスの結晶作成」に取り組んでいます。虹色で幾何学的な結晶になります。試行錯誤の結果、比較的大きな結晶作成には成功しました。電氣的に色を調節できるかにも挑戦しています。

放課後に天体観測も実施し、先ごろも一般生徒の観望もかねて「土星観測」を行いました。夏には線だった土星の環が環として見えるようになっていました。

このように同じ興味関心を持つ仲間と楽しく活動しています。



● 定時制 令和7年度 Edible School Gardenの活動について

定時制 教諭 北島匡晃

定時制1・2学年の総合的な探究の時間に行っている“Edible School Garden”の本年度の活動についてご報告いたします。

一昨年度より活動名を『学校の中庭を楽園に！学校菜園で学ぶ園藝人類学基礎講座』とし、ただ



単に野菜を栽培するだけではなく、様々な野菜の起源と種の保存法、そしてグロー

バルな視点からの農業の歴史、食と人の生活との関わりなど人類学的な視点から“食”に関する学習を深めています。

本年度は、中庭の空き地5区画を整地し、5月に里芋(善光寺)、トマト、ジャガイモ、カボチャ(甘栗カボチャ)の移植、さらに枝豆、トウモロコシの播種を行いました。今年も作物の品種については、できるだけ原種に近いものを選定していた

だき、形態、色、味といった作物の特徴を学びました。
9月には、秋野菜として様々な品種のカブ、大根等を播種しました。本年度は、関東地方でよく栽培されている“のらぼう菜”の栽培にチャレンジしましたが、うまく発芽しませんでした。その原因は、蒔いた種の上にかぶせる土



の量が多すぎたためと思われます。のらぼう菜の種子は、土の上に蒔いた後に土をかぶせる必要がなく、そのままの状態が良いということです。作物によって種の蒔き方にも様々なやり方があるということを知りました。

今年も北信地方の固有種である里芋“善光寺”が豊作で、11月7日に調理室をお借りして、秋の収穫祭を行いました。生徒自身が芋の皮むきから味付けまで上手に“芋煮”を調理しました。今年初めて栽培した甘栗カボチャは、片栗粉を混ぜ、バターで焼くという“カボチャもち”に調理され、定時制全生徒、職員で堪能しました。

土に触れる機会の少ない生徒諸君にとって、生徒自らが作物を育て、収穫し、調理して食するという経験はとても貴重です。また仲間と語り合い、協働してことを成すという意味からも、とても有意義な取り組みであると感じています。

最後に、本活動の実施にあたって、本校同窓生の坂口則夫氏(有)ズーニィ・カンパニー・高23回)によるご指導、ならびに同窓会よりご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げ、本年度のご報告といたします。



● イギリス語学研修報告

NGP係主任 黒岩寛明

イギリス研修は別名「語学研修」で、今年度新設しました。大学の寮に宿泊しながら通います。初日から試験があり、生徒本人のレベルに合わせ最適なコースに分けられます。多文化共生という意

味では、アフリカ、ヨーロッパ、アジアの生徒と同じ教室で活動しますので、最も多国籍の同世代と交流できるわけです。日本からも他県の高校生が参加しており、協働して学んできました。帰国

した成田では涙のお別れをしてきたそうです。

- (1)日 程 7月26日(土)～8月4日(月)
- (2)参加校 長野高校 2年生 9名
早稲田大学本庄高等学院 9名
- (3)内 容 ロンドンBrunel Universityに入寮
英語レッスン
現地生とアクティビティ
ロンドン市内見学
オックスフォード大学研修

○生徒感想

英語の授業では文法を学ぶだけでなく、印象に残ったのは、グループに分かれて新聞を作ることでした。グループは同じ出身国の人が集まらないように構成されました。日本人が居ない、追い込まれた状況になったことで、自分から積極的に話すことが

でき、私自身の成長へつながったと感じました。



支部・同期会・OB会だより

高67回 卒業10周年記念同窓会

令和6年12月29日(日)、長野高等学校67期生は、卒業から約10年という節目を迎え、メトロポリタン長野の会場をお借りして同窓会を開催いたしました。先輩方の同窓会に触発され、「私たちもぜひ集まりたい」という強い思いから、幹事3名を中心に企画がスタートしました。集客への不安や、「記憶に残る会にしたい」という責任感もありましたが、無事に会を執り行えたことは何よりです。ご協力くださった皆様、そしてご

助言をくださった熊原先輩に、改めて感謝申し上げます。

久しぶりに会う友同士、積もる話に花が咲き、会場は終始、熱気に溢れていました。また、長野高校にまつわるクイズ大会も催し、大いに盛り上がりました。高校の緯度経度の問題は、さすがに誰もわかりませんでしたね(笑)。気になる方は金鵒会館駐車場まで足をお運びください。

不思議なことに、私には時が経ったという感覚はあまりなく、再会した友人の姿に「良い意味で皆変わっ

長野県長野高等学校67期生 同窓会



高67回

ていない」と安堵する自分がいました。あの濃密な3年間で私たちの心に深く刻まれている証拠だと感じました。現在、同期生は皆、様々な道を歩んでいます。皆が一堂に会するこの機会は、お互いを認め合い、刺激しあう最高の場となりました。高校の学友とのつながりは、過去を糧に生きる私たちの大きな動力源になると改めて確信しました。

今回参加できなかった同期生の皆様も、ぜひお会いする機会を作りましょう。次回の節目の開催も検討しています。時を越えて集う学び舎の友と、また笑顔で再会できる日を楽しみにしています。

長野高校生全員の未来に、金鷄の光あれ

(小出隼也)

令和7年度 三星会総会開催

本年度の三星会総会（排球班・女子バレーボール班OB・OG会）は5月10日（土）に開催されました。また例年とは日程・開催内容も変わり今回は二部制にして開催しました。

第一部 母校訪問

12時30分、本校体育館にチーム三星会のユニフォームを着て役員6名が訪問。北信大会を控えて練習試合中の排球班の戦いぶりを観戦しながら試合終了後に恒例の現役激励「助成金贈呈」を行いました。併せて現役チームのユニフォーム新調に伴い些少ではありますが支援もしました。昨年に引



き続き今年も総会への現役排球班員の出席は難しいとのことでしたが、今年は三星会会長から排球班主将に直接渡すことができ、班員たちの顔も輝いていました。また女子バレーボール班はあいにく不在でしたので、排球班女子マネージャーに代理で受け取ってもらいました。

出席役員 柄沢会長(高17)、押田副会長(高27)

齋藤副会長(高27)、谷口事務局長(高40)

立岩事務局員(高42)、若林(高25)

第二部 議事～宴席

午後5時、長野駅前「油や」にて総会

廣田昌彦学校長(高34)、OB含めて17名が出席。久々の再会にいつも以上に熱気溢れる集まりとなりました。柄沢洋一(高17)会長の挨拶に続き廣田学校長からは母校の様子・生徒数減少に伴う県下の他校の様子等も丁寧にお話いただきました。事務局からは母校訪問～現役激励、年間活動及び計画、会計、会計監査等の報告があり、仁科恵敏(高4)参与には今年も見事な尺八の演奏をしていただきました。議事終了後、乾杯～宴席へと予定時間はあっという間に大幅に過ぎて

しまい、いつも練習終了後に歌っていた班歌「暁鐘の歌」、そして校歌「山また山」を齋藤明雄(高27)副会長の指揮で大合唱、散会となりました。

なお、今年は5月開催となりましたが、例年の4月第4土曜日開催と予定されていたOBの皆様も多くいらしゃったかと思います。連絡が遅くなりましたがいへん申し訳ありませんでした。

◇お知らせ◇

昭和5年、長野中学に排球班が創設されて今年で早95年が経ち、来たる2030年(令和12年)には創設100年を迎えます。これを機に「排球班 創設100周年記念祝賀会(仮称)」を盛大に開催したく、準備委員会を結成し開催に向けて準備を進めていきたいと思ひます。詳細につきましては通信・HP等で随時ご案内してまいります。



三星会HP

(高40回 谷口博一)

東京長高金鷄会

「ボウリング&うたごえ2025」開催レポート

東京長高金鷄会は、6月21日(土)に夏の交流イベント「ボウリング&うたごえ」を渋谷で開催いたしました。昨年から試みが始まった交流イベント、「ボウリング」は今年が初、「うたごえ」は好評だった昨年に続き2回目の実施となりました。当日は、高20回から高70回まで、幅広い世代の同窓生が集いました。

ボウリングは、世代混合の3チームに分かれてのチーム戦で、山内雅喜会長(高31回)の開会挨拶からスタート。初対面であってもすぐに打ち解け、2ゲームの総合得点で競い合い、声をかけ合いながら熱戦を繰り広げました。表彰式では、チーム順位のほか、個人



東京長高金鷄会

の「2ゲーム伸び率トップ」「大波賞」「ブービー賞」などユニークな賞も用意、大いに盛り上がりしました。

第二部は「うたごえ」。昭和・平成時代の名曲を高校時代を思い出しながら一緒に歌い上げ、会場は熱気に包まれました。事前アンケートをもとに作成・配布されたセットリストで参加者は予習もバッチリ。とはいえ、当日はその場でのリクエストにも応じ、さらには2名の有志によるギター弾き語りソロコーナーも急遽設けられるなど、ライブ感たっぷりの展開に。冒頭の校歌から、皆で輪になって叫ぶ「TRAIN-TRAIN」まで、会場は一体感に包まれました。

うたごえ終了後には有志による二次会も行われ、そこから新たに加わった参加者も。懐かしい話や近況を語り合い、笑顔と再会の喜びにあふれる一日となりました。

参加者からは「本当に楽しかった」「この楽しさをもっと多くの人に伝えたい」との声が寄せられました。地元を離れ、都会で奮闘する者同士、同じ学び舎で育んだ金鷄の魂を再確認し、絆と明日への力を得られる貴重な時間。若い世代が積極的に集まってくれたことで、参加者の平均年齢もぐっと下がりました。今後も夏の恒例企画として、世代をつなぐ場を大切に育てていきたいと思ひます。

(高45回 小原知子)



東京長高金鷄会

高41回

6月28日(土)、ホテル国際21にて長野高等学校金鷄会同窓会総会が盛大に開催され、私たち高41回生は高53回生の皆さんと共に当番回期の務めを果たしました。多くの同窓生にご参加いただき、無事にこの役割を終えることができたこと、まずは心より感謝申し上げます。



高41回

総会に続き開催された記念講演会では、同期である大阪樟蔭女子大学大学院教授・坂田浩之君が「『美女と野獣』に見る思春期の心」と題した講演を披露してくれました。専門的な知見に基づきながらも、身近な物語から心の機微をひもとく語り口に、多くの参加者から「自らの経験を振り返り、多くの気づきがあった」との感想が寄せられました。

世代を超えた交流の場となった懇親会には80名を超える同期生が集い、会場は終始和やかな雰囲気になりました。さらに、その後に行われた私たち同期の集いには、一層多くの仲間が集結してくれました。1989年3月の卒業から35年余り。人によっては、それこそ卒業以来の再会です。それぞれが社会で様々な経験を重ねてきましたが、ひとたび顔を合わせれば、一瞬であの頃の教室の空気に戻るから不思議です。話は尽きず、時の経つのも忘れて語り合う時間は、まるで高校時代にタイムスリップしたかのような、温かくかけがえのないひとときでした。

在学中に日々触れてきた「至誠一貫」「質実剛健」「和衷協同」という校訓は、私たちの先輩方から私たち、そして後輩たちへと、脈々と受け継がれてきたものと改めて感じます。こうした精神が今も変わらず息づいていることに、同窓会を通じて深い誇りと温かさを

覚えました。

最後に、ご指導とご支援を賜った同窓会事務局、会長・役員・理事の皆様、運営を共に担ってくれた高53回生、そしてご参加くださった全ての同窓生の皆様に、この場を借りて深く御礼申し上げます。（田尻博巳）

籠球班OB会総会

6月28日（土）、長野市内において「令和7年度籠球班OB会総会」が開催されました。

開会にあたり塩入信一会長(高22回)から、現役生の大会での成績や部活動を巡る環境の変化などについてご報告を兼ねたご挨拶がありました。

議事では、昨年夏に行われた第45回長野県四校バスケットボール対抗戦長野記念大会の開催状況、また近年の猛暑対策として少しでも役立てられることを願



籠球班OB会

い、OB会から大型扇風機を寄付したことなど、令和6年度事業報告及び決算報告が行われました。続いて、籠球班の伝統となっているOBと現役との交流試合の開催や現役への助成など令和7年度事業計画案等が提案・承認されました。

また、令和7～8年度の役員改選では、会長に塩入信一氏(高22回)、副会長に塚田和徳氏(高26回)、藤澤幸雄氏(高27回)、幹事として原田俊幸氏(高27回)、楯直人氏(高27回)、小島隆史(高34回)、松谷雄司氏(高34回)、小山健史氏(高36回)、和田良尊氏(高36回)、監事として山崎薫氏(高24回)が再任されました。

懇親会は、松井忠夫氏(高9回)の乾杯の発声で始まり、総会初参加となった三浦崇氏(高48回)、山口貴志氏(高48回)、黒崎篤郎氏(高48回)からそれぞれの近況報告が行われるなど、会員相互に日頃の様子や現役時代の活動の思い出話に花を咲かせました。限られた時間の中、親睦を深め、最後は山口盛雄氏(高16回)に締めめの発声をいただき、籠球班班歌を合唱し、現役の活躍と会員相互の健康を祈念しつつ閉会しました。

(高36回 北島隆英)

管弦楽班OB・OG会

8月9日(土)、猛暑の中、管弦楽班OB・OG会が長野高校音楽室にて開催されました。今年も、初めて会う人、久しぶりに会う人、毎年会う人と、お互い慌ただしく挨拶を交わし、午前10時頃に合奏練習が始まりました。年に一度、再結成されるオーケストラの指揮

者は、班創設当時の顧問の山本昇先生(高5回)。演奏する曲の解説や素晴らしさだけでなく、管弦楽班ができた当時の思い出やOB・OG演奏会での懐かしいエピソードも教えていただき、濃密で愉しいリハーサルとなりました。

午後には、午前の練習の成果を発表すべく、OB・OGによるモーツァルト交響曲第32番、現役生によるグリーグ「ホルベルク組曲」、現役生との合同によるベートーベン交響曲第1番第1楽章、そして校歌「山また山」の演奏が披露されました。

また、午後の第二幕、有志によるアンサンブルの発表では、ともにバイオリニストとして活躍している飯島多恵さん(高31回)と桐山建志さん(高38回)による初のデュオ演奏もあり、プロの素晴らしい演奏を生で聴かせてもらいました。

さて、参加してくれた現役生の皆さんは、今年、班員が1・2年生合わせて33名に増え、音の厚みがあるエネルギーな演奏を披露してくれました。また、班長さんからは、我々OB・OGからのささやかな寄付金で新しい楽器を購入し、傷んだ楽器も修理することができたとの嬉しい報告もいただきました。3月に行われる定期演奏会など、今後の現役生の活躍も楽しみです。

(高38回 古澤 潤)

高37回 卒業40周年記念同窓会

8月10日(日)、長野市のホテル国際21において、高37回生の卒業40周年記念同窓会が開催されました。平



管弦楽班OB・OG会



高37回

成27年の卒業30周年の集まり以来となる10年ぶりの顔合わせ。当日は小林政男先生(6組)、征矢憲先生(7組)のお二人の担任の先生にもご出席いただき、37回生102名が集結、盛会となりました。

応援団長を務めた霜田清君(8組)の司会進行により、まずこの40年の間に残念ながらご逝去された恩師と同期生に黙祷、同期会会長山田雅之君(8組)の挨拶、同窓会本体の副会長を務める倉石和明君(8組)の乾杯により開会。クラスごと近況報告に合わせて、お二人の恩師にもお言葉をいただき、あらためて先生方のお元気な弁舌と歌声を堪能。その後は多くの旧友と時を忘れ語り合いました。半数近くの出席があったクラスもあり、会場は40年前の教室そのものが再現されているかのようでした。

終盤には応援団の西沢健君(7組)が当時と変わらぬ美声を響かせ、恩師、同期生へエール、校歌「山また山」斉唱。最後に出席者全員で記念撮影し散会となりました。二次会はクラスごとの「同級会」となりましたが、それぞれ盛り上がったようです。

開催にあたり同窓会事務局をはじめ、ご協力いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。我々は来年いよいよ還暦を迎えることになります。丙午生まれということで、若干少人数ではありましたが、その分団結力は強かったと自負しております。母校に思いを馳せつつ50周年、60周年に向けて団結力を途切らせることなく、交流を続けてまいります。(石坂 真)

高57回 卒業20周年記念同窓会

8月10日(日)、高57回の卒業20周年記念同窓会がホテル国際21にて盛大に開催されました。卒業10周年記念同窓会を開催してから3,874日ぶりの同期との再会となりました。

高57回は317名の同期がいますが、104名が参加した前回と比して、今回は95名と微減したものの、未来の長高生候補である子女19名の同伴もあり、恩師や来賓等を含め、合計122名にご参加いただきました。

当日は、同窓会として学年幹事3名の選出に係る議決を執り行った後、懇親会は、今回のために8組の吉田直矢君が手掛けた「金鶏ラベルのクラフトシードル」(リンゴ農家である吉田君の実家で育てた真島ふじを用いたシードルで金鶏ラベルの限定品)での乾杯に始まり、会場は終始温かな雰囲気にも包まれました。金鶏ラベルのクラフトシードルは、数量限定ではあるものの販売されていますので、ご興味のある方はQRコードから通販サイトをご確認ください。

約2時間という限られた時間ではありましたが、久々に会う旧友と大いに語り合い良い刺激を与え合うことができたほか、各々の分野で活躍している近況を恩師にご報告することができました。また、有志からの物品等提供による抽選会では、6組の山本昇平君が立ち上げたブランド「SHOHEI」のTシャツや、勤務先企業のレトルト食品、白馬スキー場リフト券等が出品さ

高57回 卒業20周年記念同窓会



高57回

れ、大いに盛り上がりました。最後に全員で校歌「山また山」を斉唱し、再会を誓い合って解散となりました。

今回は、やむを得ない事情により参加できなかった多くの同期からも卒業生への記念品としての寄付をいただきました。当日参加者からの会費・寄付と合わせて、204,189円を長野高等学校金鷄会に寄付させていただきました。

今般の企画においては、長野高等学校金鷄会の原事務局はじめ金鷄会事務局の皆様にご指導やご協力をいただきました。この場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。

高57回の同期の皆様、次回は30周年記念同窓会で会いましょう！（代表幹事 黒石秀一）

〈高57回20周年記念限定品〉

金鷄ラベル クラフトシードル通販サイト



合唱班女声合唱班OB・OG会 カイトソサエティ

第3回「山また山の日」の会

カイトソサエティは1965(昭和40)年に発足し、今年で60年を迎えます。8月11日山の日を「山また山の日」と名付けて集まる企画が3年目となり、今年も80代から大学生に至る会員が50余名集まりました。昨年同様



合唱班女声合唱班OB・OG会

に新田町TOiGOで練習後、善光寺門前のcafe winds daimonに移動して懇親会となりました。最年長の鹿熊厚さん(高14回)の発声で乾杯、現役顧問の松本祐子先生からご挨拶をいただきました。歓談をしつつ、練習した「見上げてごらん夜の星を」「風が」から始まって、高29回の皆さんによる「怪獣のバラード」、さらに旧班歌「自由の歌」「いざ起て戦人よ」、若手中心に「夢見たものは」などが次々に歌われる中、一角で数人が歌い始めた多田武彦「雨」にしだいに歌声が加わり、終曲のppで会場が静寂に包まれるなど、2時間が瞬く間に過ぎました。最後に「鷗」「言葉は」「大地讃頌」を歌ったところで「もう一度校歌を!」というリクエストに応え、お開きとなりました。

前年に続きご苦労いただいた幹事の金井(富林)花苗さん(高61回)、松本孟さん、荻原(樋口)遼さん(ともに高63回)からは、さらに若手会員がチームに加わってほしいという願いが寄せられています。今回ご欠席の会員の皆様も、老若を問わず懐かしい顔ぶれとの懇親の機会ですので、お誘いあわせの上、来年はぜひご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

(カイトソサエティ会長 高33回 吉川 泰)

硬式庭球班OB・OG会

8月11日(月・祝)に第3回硬式庭球班OB・OG会が開催されました。県内外から集まったOB・OG22名、現役生を合わせると総勢約40名の参加者となりました。当日は顧問の井出先生、志津先生、山口先生にご参加いただくとともに、多大なご協力をいただきました。感謝申し上げます。

さて、今回の会は大変幸運に恵まれました。連日の雨で開催が危ぶまれましたが、顧問の先生方の機転で

急遽会場を長野高校から東和田のオムニコートに変更と、OB・OG、現役生の強い想いで天気も持ち無事開催に至りました。硬式庭球班の絆と底力を感じました。

実行委員長、山内雅喜氏(高31回)の挨拶から始まり、OB・OG会から現役生にボールを贈呈させていただきました。簡単な自己紹介をした後、OB・OG対現役生の交流試合を行いました。OB・OGの中には初めて会う人も多く、世代を超えてダブルスのチームが形成されました。この会を通じてOB・OG同士も新たな交流が生まれています。試合前は和やかなムードですが、いざ試合が始まるとOB・OGは手加減なく現役生に立ち向かいます。体力では敵わない現役生に、テクニックとコミュニケーション力で戦う真剣勝負、見ごたえたっぷりの試合が多く繰り広げられました。

試合と同時に初の試みとして、元北信越チャンピオン植月(旧姓峯村)葉月さん(高48回)のテニス教室も開催されました。現役のコーチとして活躍されている植月さん。現役生たちは熱心に先輩の指導を受けていました。

当日の夜にはOB・OGによる懇親会も開催されました。昼にプレーしたテニスの話、各々の近況についてなど、夜深くまで大いに盛り上がりました。現役生のキラキラした姿に大きな刺激を受け、来年こそは鍛錬してこの会に臨もうと、心を新たにOB・OGも多かったかと思います。硬式庭球班現役生、OB・OGが世代を超えて交流ができる、この会がますます発展することを期待しております。(高42回 竹花裕史)

高46回 早寿記念同窓会

8月12日(火)、人生の大きな節目である50歳を迎え



硬式庭球班OB・OG会

長野高校46回生 早寿記念同窓会



る年に、健康で益々の活躍を願って長野高等学校46回生の学年同窓会、「早寿」記念同窓会をホテルメトロポリタン長野にて開催しました。LINEという便利なSNSツールを利用し、長野市に在住の仲間を中心に会場の予約を含め1年前から企画の準備を始め、参加者の募集も主にはSNSを使用し時代の変化を感じた次第です。お盆前の平日にもかかわらず恩師を含め、総勢130名余りの会となりました。17時から2時間余りの会は、亡くなられた恩師や仲間への哀悼の意を込めて黙祷から始め、当時の生徒会長による乾杯の発声で、BGMには金鵒祭でお馴染みのうたごえから選曲された懐かしい音楽と共に宴会をスタートしました。ご参加くださいました恩師からは祝辞と温かなお言葉を頂戴しました。あえて余興はせず歓談を主にしましたが、短い時間内で思い出話に花を咲かせ、クラスや班活の集合写真撮影を各々楽しんで、あっという間に時間が過ぎました。同窓会ではお馴染みの校歌斉唱、恩師への花束贈呈、全体の集合写真を撮って会を閉じました。

卒業して30年余りが経ち、みんな別々の世界で様々な経験を積み、成長した仲間たちとこうして再会できることは大変幸せなことです。当時、担任をしてくださった3名の先生方にもご参加いただき、活がありつつも和やかで温かな同窓会と

なりました。次は5年後、語呂合わせで55歳を記念して学年同窓会を予定しています。多くの仲間とまた元気に再会できることを願って46回生の学年同窓会のご報告とさせていただきます。(小幡哲文)

近畿長高金鵒会 総会・懇親会

9月27日(土)14時～16時、梅田のニュートーキョー第一生命ビル店で18名が参加し開催しました。

今年の夏の平均気温は過去最高で、その長い期間が10月の今、やっと終わったかという感じです。4月から始まった大阪万博も閉幕を迎え、閉会式をテレビで見ながらこの原稿を書いています。私はパビリオンの抽選には1つも当たらず、何とかいくつかのパビリオンと建物を観ることができて、まあまあ満足でした。個人的には春に北野天満宮や桂離宮を見学しましたが、昨年行った伏見稲荷大社などは18時過ぎに行って



も、8割以上が外国人観光客と、どこに行っても多くの外国人が関西を訪れています。

さらに今年は孫が生まれた後の『金鷄』原稿の編集に加えて、建築士事務所の登録であったり、環境マネジメントシステム審査員の資格取得であったり、この辺は単に私のアピールなのですが、本当に慌ただしい年となりました。昨年から応援していた自民党の高市新総裁は、大学の入学・卒業が同期というだけで全く面識がありません。掲載される時期に総理大臣であることをお祈りしています。

さて5年前のコロナ以降、総会の参加者が半減し高齢化が進んでいます。何とか打開するために面白そうなイベントを企画したり、ホームページを立ち上げようということで勉強している最中なのですが、メールを発信しても宛先不明が多いなど、思うようにならない苦勞を続けています。そのような中でも会を運営し会報を発行するにあたって、高坂さん、村松さん、寺島さんにご協力いただきましたこと、誌面をお借りして感謝申し上げます。

今年は阪神タイガースが圧倒的な強さでセ・リーグを制し、大阪万博は後半大いに盛り上がり終了しました。来年もまた何か楽しいことが関西で続くよう願ってやみません。(会長 高31回 風間和仁)

高27回 卒業50周年記念同窓会

～ああ我が金鷄ヶ台の青春、今ここに蘇る～

晩秋の信濃路、10月25日(土) ホテルメトロポリタン

長野において高27回・卒業50周年記念同窓会が開催されました。遠く九州・四国、東北地方からも馳せ参じてくれた同期も含め、148名が参加しました。

開会に先立ち志半ばで黄泉の世界へ旅立った恩師・友人に黙とうの誠をささげました。佐藤真二氏(3年次生徒会長)の開会挨拶、続いて満90歳にしてかくしゃくたる姿の梨本雄三先生にお祝いの言葉をいただきました。ご自身の長高時代からの歴史的スピーチは印象深いものでした。

今回は全員参加で盛り上げてもらいました。合唱班は、当時流行った楽曲を収録・編集、バックグラウンドとして会場に流してくれました。圧巻は吹奏楽班の50年ぶりの生演奏が披露されたことです。全国レベルの実力派は、50年の時空を経ても変わることはありませんでした。

同窓会事務局、新聞班の協力を得て、在学当時の「長高新聞」(なんとオリジナルが保存されていました)、「金鷄」の閲覧コーナーも設けられました。多くの同期生は、ちょっぴり青臭い若者の文章を懐かしく読んでいました。

最終盤に応援団が登場、全く衰えを見せない美声でエールが行われました。「山また山」の斉唱、現役生たちと声のコラボのできる特別バージョンで歌いました。宮尾正樹氏(2年次生徒会長)の閉会の辞をもって、高27回・卒業50周年記念同窓会は盛会裏に閉幕しました。最後に、同窓会事務局の皆様には一方ならぬご協力をいただきました。心から御礼申し上げます。

(深井克純)

長野高等学校 高27回・卒業50周年記念同窓会



高27回

高9回 長野北ラス会

今年の長い夏の猛暑、酷暑も忘れてしまうほどすっかり寒くなり、秋も通り越して冬の気配がする11月7日(金・立冬)、第66回長野北ラス会が28名の参加のもとホテル信濃路にて開催されました。

北ラス会は昭和43年頃、東京北ラス会が発足し、約2年後に長野も正式に「長野北ラス会」という名称になりました。

今年も来賓として廣田昌彦校長先生、原良通金鶏会事務局長にお越しいただき、長野高校の近況や現役高校生の活躍についてお話いただきました。会は2時間では足りないくらいに盛り上がりました。今年は「物価高騰」と「熊の出没」が話題の主役でした。

昭和32年に長野北高等学校を卒業してから今年で68年が経ちました。下駄に手ぬぐいが似合った学生が来年は米寿(88歳)になります。年齢的・体力的にも北ラス会の開催が限界かもしれないという声もありますが、同窓会は会員相互が交流し親睦を図る場でもあります。米寿の節目で一区切りをつけるか、会のあり方を含め来年の検討課題としました。

来たる年は明るい話題、出来事が多々ありますよう願っています。

ふみゆく大地の果てしなき

ゆたけき心ぞ我等がたのみ

起てよいごころにて 我に金鶏の光あり

『日新鐘』第88号に掲載させていただくこと、何か因縁があるように感じます。(幹事 荒井勝彦)



高9回



回期別対抗ゴルフ・コンペ

同窓会主催のゴルフコンペが9月28日(日)長野カントリークラブにおいて、92名参加のもと新ペリア方式で開催されました。成績は下記の通りです。

- 個人優勝 増田 行広(高37) グロス 84 ネット69.6
- 個人2位 保谷 秀幸(高25) グロス 94 ネット70
- 個人3位 勝山 信久(高27) グロス 85 ネット70.6
- 団体優勝 高37(藤澤典隆・倉石博・山下健一)
- 団体準優勝 高11(戸根川千尋・高橋邦寿・内山威)
- 団体3位 高34(植松悦夫・小島隆史・小林一也)
- 団体4位(高33)／団体5位(高25)／団体5位(高26)
- 団体7位(高20)／団体8位(高24)／団体9位(高27)
- 団体10位(高19)／団体11位(高29)／団体12位(高23)
- 団体13位(高22)／団体14位(高32)



団体優勝



個人優勝



個人2位



団体準優勝

特別寄稿 北の地 札幌から永遠のネットワーク報告

高32回 村田 勝

2025年3月1日(土)札幌医大に長野高校OB・OGが5人集まりました。第37回代用臓器・再生医学研究会を私・村田(高32回、応援団長、北大歯卒)が会長で担当することになり、大城和恵先生(高38回、日大医卒、札幌孝仁会記念病院 循環器内科・登山外来)に特別講演「山岳医が見た極限環境と命を守る挑戦」を依頼したことがきっかけです。田中徹君(高32回、吹奏楽班、東京芸大卒、札幌交響楽団員)や市川量一君(高32回、北大医卒、札幌医大准教授)、根津尚史君(高34回、管弦楽班、名大理卒)ら金鷄仲間が世界の大城先生(日本人初の国際山岳医)の貴重なご講演に駆けつけてくれました。

長野高時代の田中君は吹奏楽班長として硬式野球部の応援に吹奏楽班を率いて来てくれました。市川君には北大時代に恵庭岳や暑寒別岳に原山英之君(高35回、応援団、北大法卒、日立製作所)らと連れて行ってもらい、山への扉を開けてくれました。根津君は2014年北海道医療大学歯学部准教授(理工学分野)として赴任され、私の研究室前で押忍と挨拶してくれました。私が応援団長の時の新入生で応援指導を思い出し、嬉しい限りでした。

2018年の日新鐘第73号に岡山金鷄会設立が載っていました。岡山大学医学部教授に金澤右先生(高26回)と笠原真悟先生(高35回)の2人の金鷄健児が存在することを知りました。私も岡大(口腔病理)に助手として在籍したことがあり、岡山で三男が生まれ研究に燃えて留学のチャンスを得た大学です。現在、北海道医療大学歯学部にも根津君

と私2人の長野高OBが教授として在籍中です。

北海道にはご活躍の金鷄健児が多くいます。存じ上げている5名のみを紹介いたします。

岡田弘先生(高14回、北大名誉教授)：火山防災研究の成果を洞爺湖住民と共有し、2000年有珠山噴火では地震予知・直前の避難指示により死者0だった。死者0は有珠火山研究所での20年の地震予知研究と減災指導で、住民の大きな信頼を得ていた成果であった。

小林一三先生(高26回、北大歯卒、JR札幌病院 口腔外科医)：高校・大学と同じ道を歩んだ口腔外科の先輩。患者のみならず歯科医からも信頼の厚い名医。

綿貫豊先生(高29回、生物班、北大農卒、北大名誉教授)：海鳥研究者で南極調査に4回。天売島で旅行中に偶然出会い宴を持ち、実弟である綿貫昇君(32回、私の同級生)に電話。

宮島真理先生(高53回、北海道医療大歯 首席卒業、岩手医大医卒)：歯科医師と医師のダブルライセンスを有するドクター。私との出会いは4年生口腔外科の講義。講義中に配った自己紹介用紙に校章の絵(金鷄)をきれいに描いたので驚いた。

宮澤太成君(高70回、野球班、北大法卒)：長野高・北大硬式野球部投手として活躍後、2023年北大初の日本プロ野球選手として西武に入団の快挙。長野高4人目のプロ野球選手。

皆様、札幌にお越しの際は遠慮なくご一報ください。murata@hoku-iryo-u.ac.jp



村田(高32回)・大城(高38回)・田中(高32回)



根津(高34回)・村田(高32回)

市民大学事業

金鶏会館連続公開講座

古文書と考古学から解き明かす歴史学―「いま明かされる古代55&中世」

公開講座

主催：一般社団法人長野教育文化振興会
協力：一般社団法人長野高等学校金鶏会
後援：長野県、長野県教育委員会、長野県長野高等学校

於 金鶏会館 大講義室

第1回 10月18日(土)〔第356回講演〕

東京大学名誉教授、京都府立 京都学・歴史館 京都学特任研究員
田島 公 先生
「霊仙寺と北信濃の山岳信仰(修験道)の霊場」
―三善為康撰『拾遺往生伝』に見える水内郡多牟礼山の行者・平圓を手掛かりに―

第2回 11月15日(土)〔第357回講演〕

信州大学 大学史資料センター 特任教授
福島 正樹 先生
「古代信濃の歴史的景観 その2」
―官道・官衙と貢納物―

第3回 12月13日(土)〔第358回講演〕

早稲田大学 文学学術院 文学部 美術史コース 教授
山本 聡美 先生
「美術・文学の中の須弥山」
―中世日本人の世界地図―

第4回 1月31日(土)〔第359回講演〕

長野県長野西高等学校 教諭・元 長野県立歴史館 専門主事
傳田 伊史 先生
「『麻績』の由来とその歴史的変遷」
―古代の繊維製品の生産と貢納―

第5回 2月21日(土)〔第360回講演〕

長野県文化財保護協会 常務理事・上田市公文書館 専門事務員
倉澤 正幸 先生
「上田地方における古代の推定東山道と関連遺跡群の検討」
―過去の発掘調査成果等から―

第6回 3月14日(土)〔第361回講演〕

長野県立歴史館 学芸部
文献史料課 課長・学芸員・認証アーキビスト
村石 正行 先生
「室町幕府将軍と川中島合戦2」
―外交関係を軸に考える―



令和7年度同窓会費(3,000円)の納入をお願いいたします。

今年度の会費未納の方に振込用紙を同封いたしました。ご協力をお願いいたします。

送金方法

- ①同封の振込用紙でのお振り込み
コンビニ・郵便局のどちらでも利用できます。
- ②用紙を使わず銀行へのお振り込み
下記の口座へお願いいたします。お名前と卒業回期または、お客様番号を入力してください。
八十二銀行 長野北支店 普通 133722
一般社団法人長野高等学校金鶏会
長野信用金庫 城北支店 普通 0031958
一般社団法人長野高等学校金鶏会

- ③スマートフォン決済
「d払い」・「auPAY」・「FamiPay」が利用できます。
振込用紙に印刷されているバーコードを読み込んで、納入していただくことができます。
なお、チャージ残高から支払われますので、ご利用の際は事前に残高の確認をお願いします。

結婚相談室のご案内

相談日は
水曜日です

1. 相談日時 原則として水曜日のみ 10時から16時まで
2. 相談員 長野高校の同窓生である女性相談員が務めております。

ご本人の来室が難しい場合、ご家族様が代わりに相談にお見えになっても結構です。

ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先

TEL 026-235-3822(平日14時～19時)

E-mail dousoukai@kinshi.org

<http://www.kinshi.org>



長野高校吹奏楽班OB・OG 第57回定期演奏会

日時 令和8年3月28日(土)
13:30 開場/14:00 開演
会場 ホクト文化ホール 中ホール 入場無料
曲目 F.エロール / 歌劇「ザンパ」序曲
G.ホルスト / 吹奏楽のための第1組曲
リムスキー=コルサコフ / スペイン奇想曲
J.シュトラウスⅡ / 喜歌劇「こうもり」序曲

ほか

皆様のご来場、また多くの吹奏楽班OB・OGの皆さんのご参加を心よりお待ちしております。
詳しくは公式サイトをご覧ください。
<https://nhb-obog.net>

寄贈図書



医療・福祉の総合情報誌
JAPAN MEDICAL SOCIETY 2025年初夏号～11月号
野村元久氏(高10回)寄贈



英語のことわざがわかる本
いつかどこかできっと役立つ320を解説
著者 和田研志氏(高12回)



我らの内なる核爆発
～もはや脅かされることなく～
著者 矢澤俊彦氏(高13回)



人生、ポレポレで行こう
著者 内山二郎氏(高15回)



高齢者が体調よく
毎日過ごすための教本
著者 宮原忠夫氏(高15回)



人間関係、音楽、外国と日本のはなし
～町の一音楽教師から見た世の中～
著者 草の実アイ氏(高24回)



古代山陰と東アジア
著者 大日方克己氏(高28回)



古代国家と年中行事
著者 大日方克己氏(高28回)



信州から考える世界史
歩いて、見て、感じる歴史
傳田伊史氏(高31回)共著



大学書道研究
第18号
永由徳夫氏(高36回)共著



帰してはいけない外来患者
第2版
伊藤 慎氏(高53回)共著



パーパス・ドリブンな組織のつくり方
発見・共鳴・実装で会社を変える
後藤照典氏(高53回)共著

ご寄付をいただきました。

- ◇高22回 匿名 10万円
- ◇高27回 匿名 5万円
- ◇高37回 卒業40周年 21万2千円
- ◇高46回 早寿記念 2万円
- ◇高57回 卒業20周年 20万4,011円
- ◇匿名の同窓生の方 80万円

この方からは5年続けてご寄付をいただきました。120周年記念事業の「金鶏太陽光」奨学金に上乘せする形で使わせていただきます。



高37回の皆さんから

ありがとうございました。

新規データベースへの登録のお願い

昨年から新たなデータベースの構築を進めています。会員の皆さんからの登録をお願いします。



池田満寿夫ギャラリー

金鶏会館では池田満寿夫(高4回)の作品を50点余り、常設展示しております。ぜひ、ご覧にお越しください。平日14時～17時、それ以外の時間は予めご連絡ください。



事務局便り

- 今年の夏の酷暑は「危険」といわれるほどでした。金鶏会館も2階は特に暑くなり、35℃を超えるようなときは古いエアコンでは冷気が出なくなることもありました。また、冬の廊下は外の気温と同じくらいまで冷え込みます。サッシの隙間からうっすら雪が積もるところもあります。気候変動により四季でなく夏と冬の二季になってきているともいわれる昨今、避暑避寒のあり方も含めて登録有形文化財としての金鶏会館への手当を考えていく必要があります。
- 2029年(令和11年)に長野高等学校は創立130周年を迎えます。130周年を記念してどのような事業を行うのかをこれから学校・PTAとともに計画してまいります。その企画案については理事会の承認をいただいて決定してまいります。同窓生の皆さんには様々なご協力をお願いすることと思います。よろしくお願いいたします。
- 今年はインフルエンザの流行が早くから始まりました。同窓生の皆さんには体調にくれぐれもご留意いただき、今年の冬を乗り越えてください。